品番 2195880-2 A

OMRON

形 KP-CM2-D 用 PC ツール

ユーザーズマニュアル

もくじ

注意事項……2
はじめに……3
動作環境……3
1.セットアップを行う前に……4
2.PC ツールのセットアップ手順……5
3.PC ツールの起動……8
3.1.PC ツールの起動方法……8
3.2.手動での接続方法……17
4.PC ツールの操作……20
4.1.PC ツールについて……20
4.2.データ保存……21
4.3.画像変更……27
4.4.バージョン情報……32
5.PC ツールの終了……33
6.アンインストール……34
7.トラブルシューティング……36

注意事項

1.本ソフトウェアの著作権はオムロン株式会社にあります。

2.本ソフトウェアおよび本マニュアルは本製品の使用許諾書に記載の条件の下でお使いください。

3.本ソフトウェアおよび本マニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。

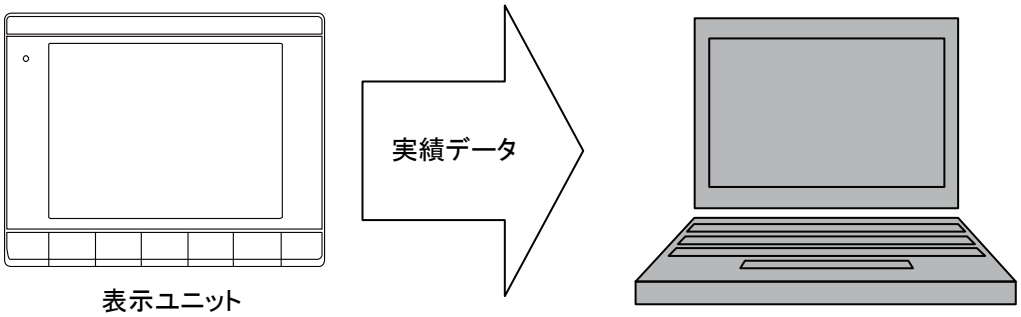
4.本ソフトウェアの仕様、および本マニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更することがあります。

5.本マニュアルの掲載画像とソフトウェアの画像には若干の相違がある場合があります。ご了承ください。

Microsoft Windows、Internet Explorer、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 は Microsoft Corp. の登録商標です。
Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
その他、本マニュアルに記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。なお、本マニュアルの本文中では、(R)、TM マークなどは明記していません。
© Copyright OMRON Corporation 2011, All Rights Reserved.

はじめに

このたびは、パワーコンディショナ用カラー表示ユニット（以下表示ユニット）をお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。
本マニュアルは、表示ユニット用 PC ツールの使用方法を説明しています。
この PC ツールは、表示ユニットとお手持ちのパソコンを使用して、表示ユニットに保存されている過去実績
データのダウンロードや、背景画像の変更をするアプリケーションソフトです。
ご使用前に本マニュアルを必ずお読みください。



表示ユニット　　パソコン

動作環境

PC ツールは、以下の環境で動作します。

【パソコン】

パソコン本体に USB ポートを装備した PC/AT 互換機

【OS】

Windows XP(SP3)／Windows Vista(SP2)/Windows 7(32bit/64bit)の各 OS[日本語版]

（OS をアップグレードしてご使用になる場合は、上記の OS に該当しても動作保証外となりますのでご了承く
ださい）

【CPU】

600MHz 以上

【メモリ】

上記 OS が動作する環境

【必要なハードディスクの空き容量】

40MB 以上(.NET Fremework2.0 の容量を除く。必要なハードディスク容量は Microsoft のホームページを
参照してください。）

【ディスプレイ】

解像度 1024×768 ピクセル以上

【インターフェース】

USB×1 ポート(プロトコル：USB COM インターフェース）（USB 1.1 以上）

【文字フォント】

各 OS に標準搭載のフォントを使用(主に MS P ゴシック/MS UI Gothic)

【その他】

CSV ファイルを読み込める表計算ソフト「Excel 等」が必要です。

1.セットアップを行う前に

PC ツールのセットアップを行う前に以下の準備を行ってください。

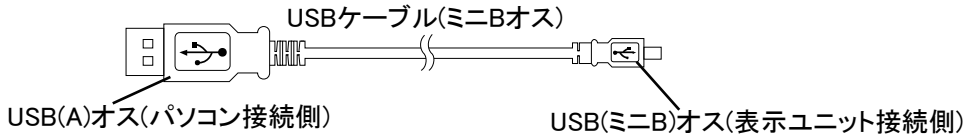
・動作環境(3 ページ)をよくお読みになり確認してください。

・インストールは Administrator ユーザまたは管理者権限のあるユーザによって行ってください。
Windows Vista の場合、標準アカウントユーザでインストールすることはできますが、管理者権限のあるユーザのパスワード入力が必要になる場合があります。

・Windows が正常に起動されていることを確認してください。

・実行中のアプリケーションソフトがありましたら、終了してください。
（実行中のアプリケーションソフトとは、ウィルスチェックソフト、スクリーンセーバーも含みます。）

・パソコンと表示ユニットを接続するために USB ケーブル(ミニ B オス)をお客様で準備してください。



・セットアップには、以下のファイルを使用します。

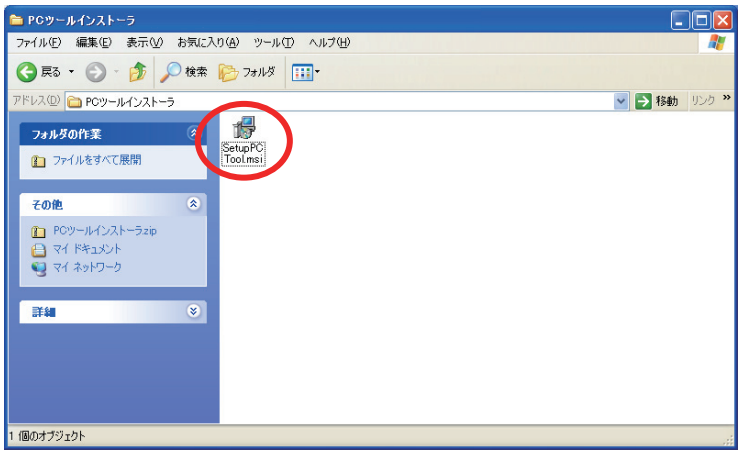
SetupPCTool.msi	:インストーラ
Kpcm2usb.inf	:USB ドライバ用システム定義ファイル
PC ツール取扱説明書.pdf	:ユーザーズマニュアル（本マニュアル）

2.PC ツールのセットアップ手順

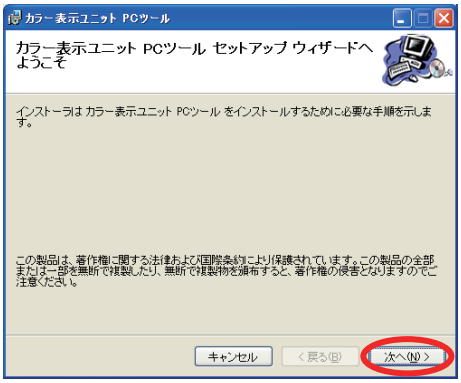
PC ツールをパソコンにインストールする手順を説明します。以下の順序でインストールを行ってください。

1. Administrator の ユーザ名または管理者権限のユーザ名でパソコンを起動してください。

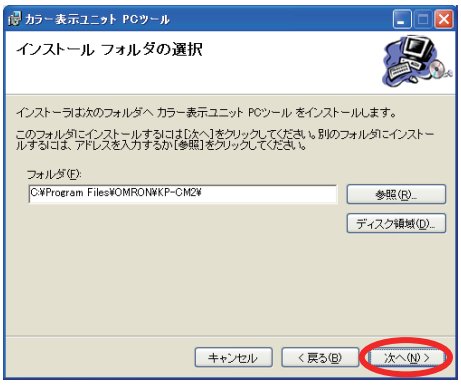
2.『SetupPCTool.msi』をダブルクリックしてください。(画面は Windows XP の画面を使用しています。)



3.セットアップ開始画面が開きますので、『次へ』をクリックしてください。
セットアップを中断する場合は『キャンセル』をクリックしてください。
セットアップを中断した場合は「インストールを中断した時の操作」(7 ページ)を参照してください。
以降の操作で『キャンセル』をクリックした場合も同様に操作を行ってください。



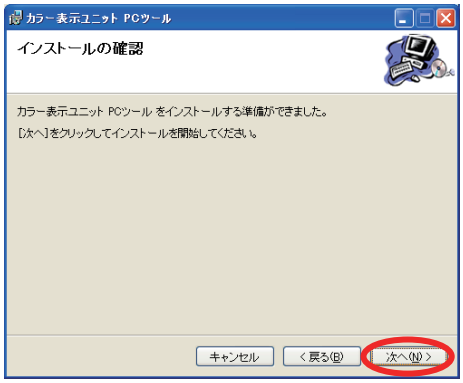
4.このフォルダにインストールする場合は、『次へ』をクリックしてください。
インストール先を変更する場合は『参照』をクリックして、インストールするフォルダを選択してください。
セットアップを中断する場合は『キャンセル』をクリックしてください。
3 項へ戻る場合は『戻る』をクリックしてください。



5.インストールを開始します。『次へ』をクリックしてください。

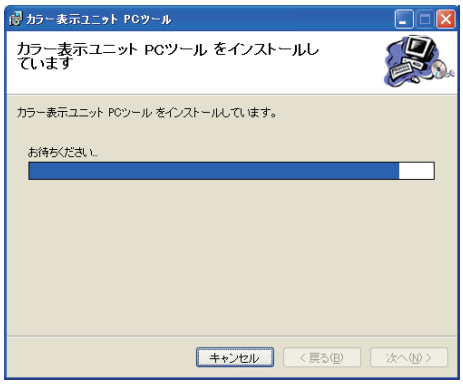
セットアップを中断する場合は『キャンセル』をクリックしてください。

4 項へ戻る場合は『戻る』をクリックしてください。



6.PC ツールをインストールしています。しばらくお待ちください。

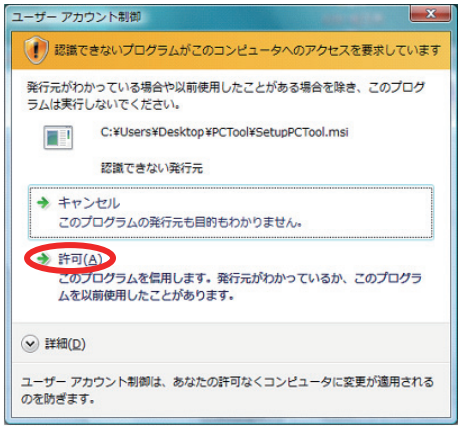
セットアップを中断する場合は『キャンセル』をクリックしてください。



ご使用されるパソコンの OS が Windows XP 以外の場合、ユーザーアカウント制御の警告が表示される場合があります。パソコンの OS ごとに次の対処を行ってください。

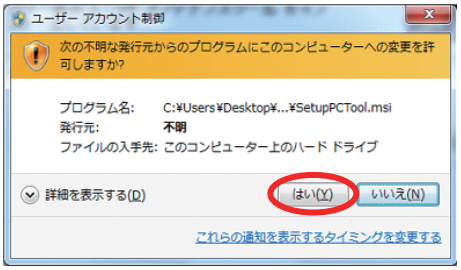
[Windows Vista の場合]

『許可』をクリックしてください。

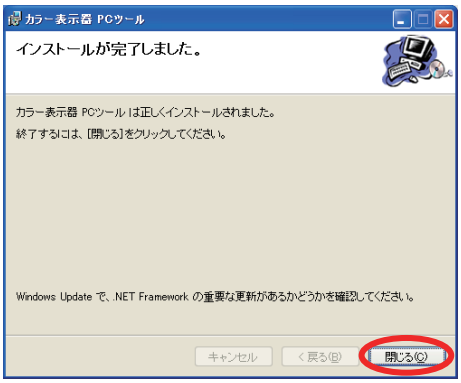


[Windows 7 の場合]

『はい』をクリックしてください。



7.インストールが完了しました。『閉じる』をクリックしてください。

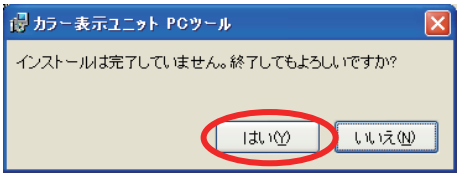


■インストールを中断した時の操作

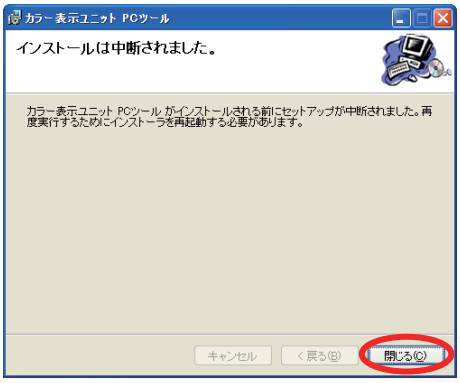
インストール操作中に『キャンセル』をクリックした場合に次の操作を行ってください。

1.インストールを中断する場合は『はい』をクリックしてください。

インストールを行う場合は『いいえ』をクリックしてください。



2.インストールは中断されました。『閉じる』をクリックしてください。



3.PC ツールの起動

PC ツールの起動について説明します。次の手順に従って操作を行ってください。

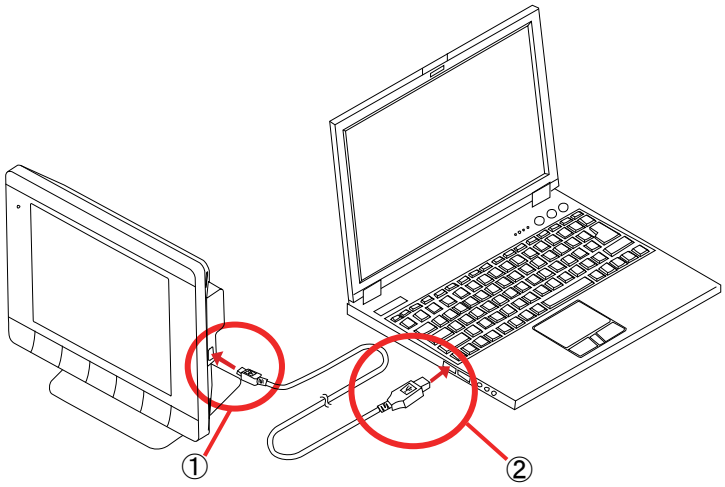
3.1.PC ツールの起動方法

1.表示ユニットの AC アダプタが表示ユニットとコンセントに差し込まれていることを確認してください。

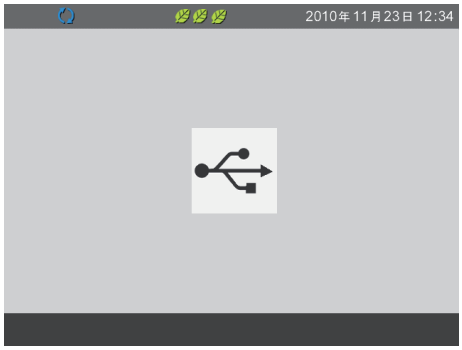
2.次の手順でパソコンと表示ユニットを USB ケーブルでつないでください。

①USBケーブルと
表示ユニットを接続する。

②パソコンのUSBポートに
USBケーブルを接続する。



3.表示ユニットの表示画面が次のように変わったことを確認してください。
次の表示画面は USB ケーブルで表示ユニットとパソコンを接続中に表示します。
このため、PC ツールが起動していなくても表示されます。

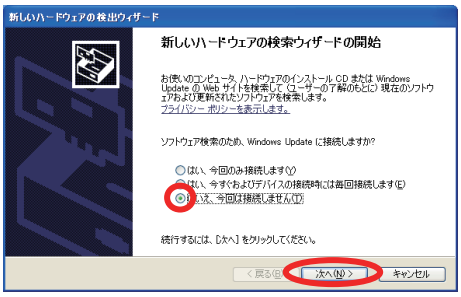


4.WindowsXP の場合、初めて表示ユニットをパソコンに接続したとき、もしくは、ドライバーインストール時に使用した USB ポート以外の USB ポートに USB ケーブルを接続すると、ドライバーのインストールが要求されます。

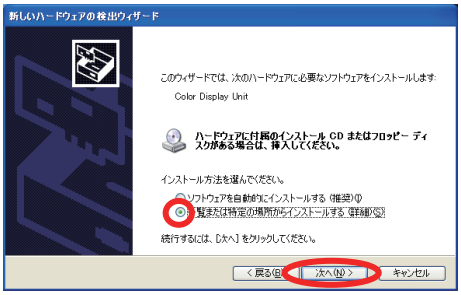
Windows XP の場合:ドライバーのインストール手順(Windows XP)(9 ページ)を参照してください。
使用する OS が Windows XP 以外の場合は次を参照してください。
Windows Vista の場合:ドライバーのインストール手順(Windows Vista)(11 ページ)を参照してください。
Windows 7 の場合:ドライバーのインストール手順(Windows 7)(13 ページ)を参照してください。

[ドライバーのインストール手順(Windows XP)]

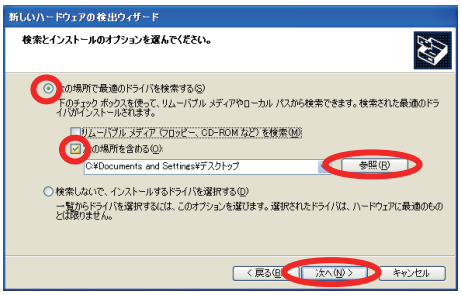
①次の画面が表示されたら『いいえ、今回は接続しません』にチェックをいれ、『次へ』をクリックしてください。



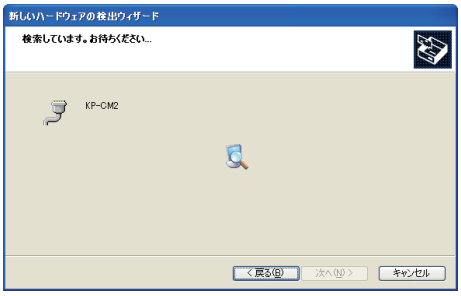
②次の画面が表示されたら『一覧または特定の場所からインストールする』にチェックをいれ、『次へ』をクリックしてください。



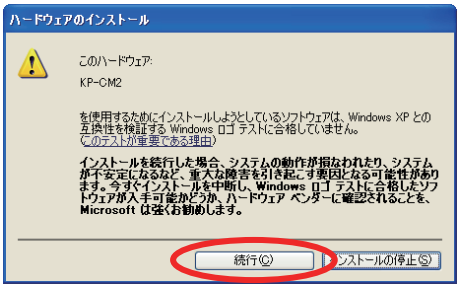
③次の画面が表示されたら『次の場所で最適のドライバを検索する』と『次の場所を含める』にチェックを入れ『参照』をクリックして、Kpcm2usb.inf を保存しているフォルダを指定してください。
フォルダの指定後、『次へ』をクリックしてください。



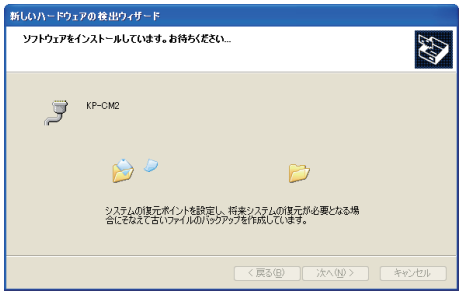
④ドライバを検索しています。しばらくお待ちください。



⑤『続行』をクリックしてください。

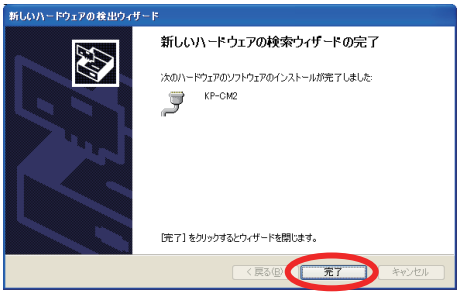


⑥ソフトウェアをインストールしています。しばらくお待ちください。



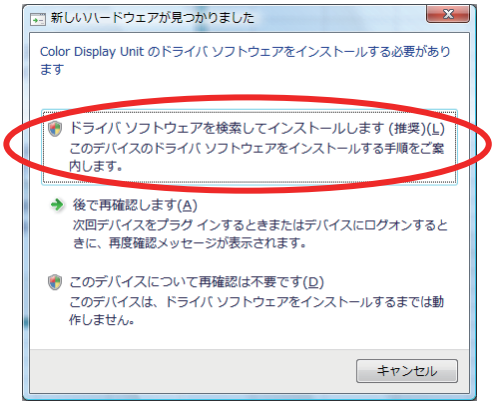
⑦ドライバのインストールが完了しました。『完了』をクリックしてください。

ドライバのインストール後は 5 項(15 ページ)を参照してください。

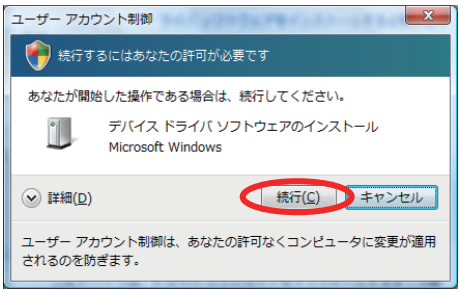


[ドライバのインストール手順(Windows Vista)]

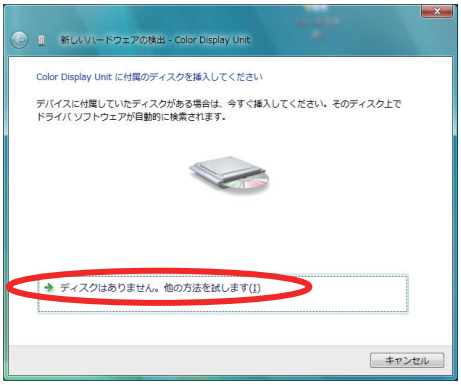
①次の画面が表示されたら『ドライバ ソフトウェアを検索してインストールします』をクリックしてください。



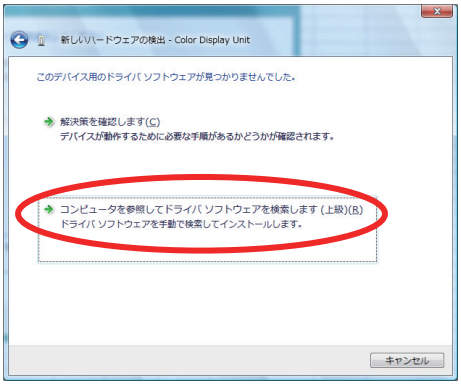
②ユーザーアカウント制御の警告が表示されますので、『続行』をクリックしてください。



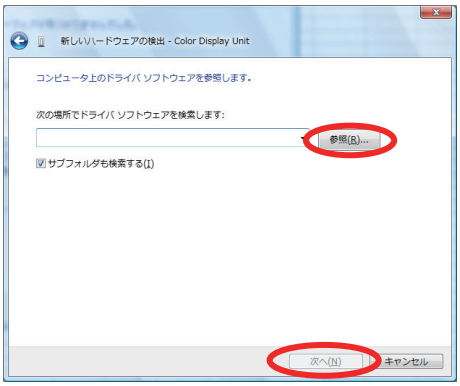
③下記が表示されますので、『ディスクはありません。他の方法を試します』をクリックしてください。



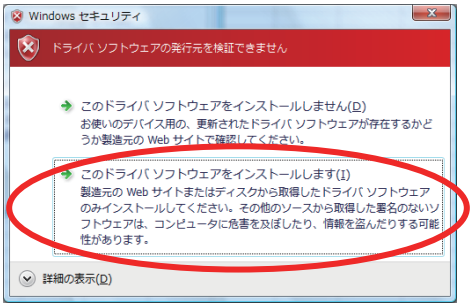
④『コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します』をクリックしてください。



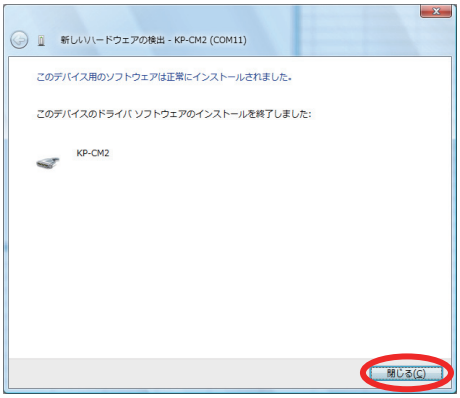
⑤次の画面が表示されたら『参照』をクリックして、Kpcm2usb.inf を保存しているフォルダを指定してください。フォルダの指定後、『次へ』をクリックしてください。



⑥Windowsセキュリティの警告がでますので、『このドライバソフトウェアをインストールします』をクリックしてください。

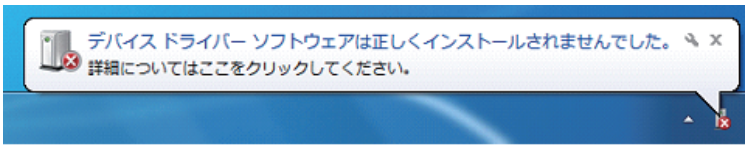


⑦ドライバのインストールが完了しました。『閉じる』をクリックしてください。
ドライバのインストール後は5項(15ページ)を参照してください。

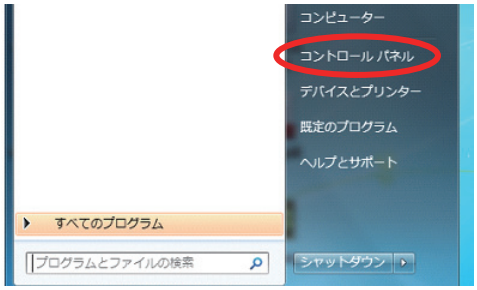


[ドライバーのインストール手順(Windows 7)]

①表示ユニットをパソコンに接続すると、次のポップアップが表示されます。



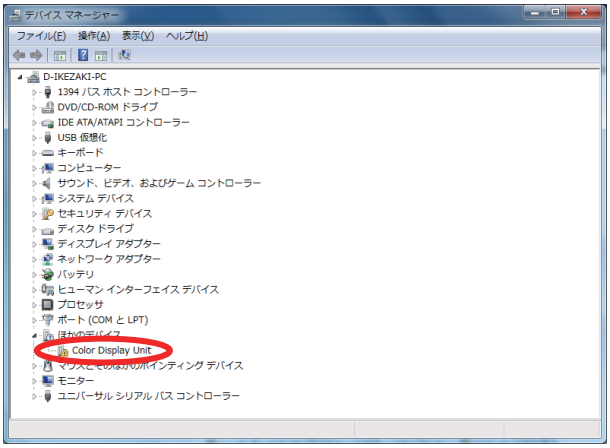
②スタートメニューより『コントロールパネル』をクリックします。



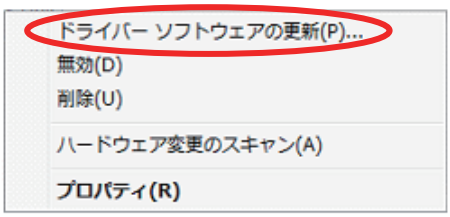
③『システムとセキュリティ』をクリックします。

④『システム』の『デバイスマネージャー』をクリックします。

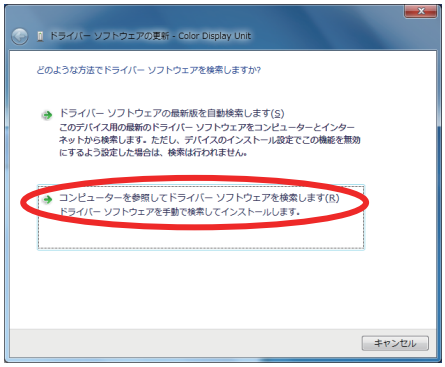
⑤『ほかのデバイス』の『Color Display Unit』を右クリックしてください。



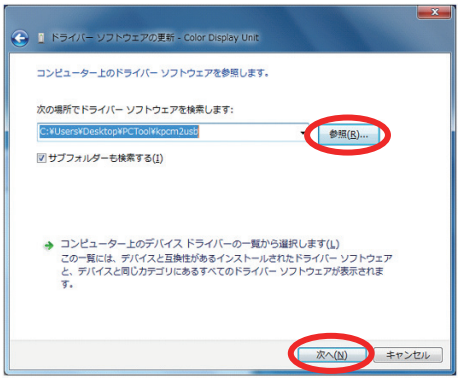
⑥表示されたメニューの『ドライバー ソフトウェアの更新』をクリックします。



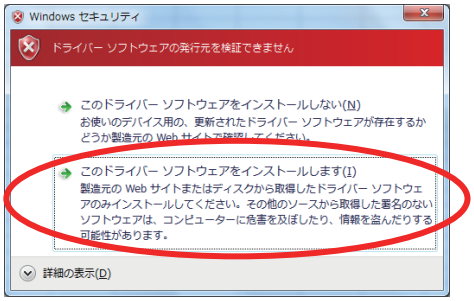
⑦画面下の項目『コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します』を選択してください。



⑧『参照』をクリックし、Kpcm2usb.inf を保存しているフォルダを指定してください。
フォルダの指定後、『次へ』をクリックしてください。

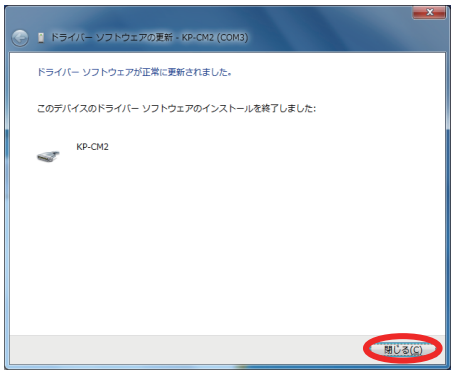


⑨インストール中にセキュリティの警告が表示しますので、『このドライバーソフトウェアをインストールします』を選択してください。

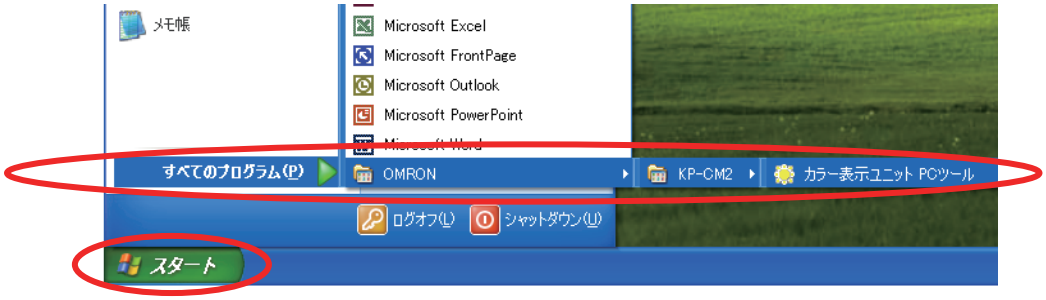


⑩ドライバーソフトウェアのインストールを終了しました。『閉じる』をクリックしてください。

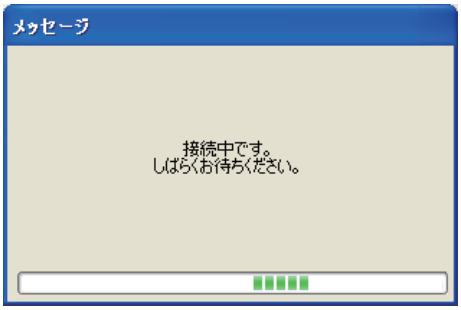
ドライバーのインストール後は 5 項を参照してください。



5.Windowsのデスクトップ上にある『カラー表示ユニット PCツール』アイコンをダブルクリックするか、
Windowsのデスクトップ画面で、『スタート』→『すべてのプログラム』→『OMRON』→
『KP-CM2』→『カラー表示ユニット PCツール』をクリックしてください。

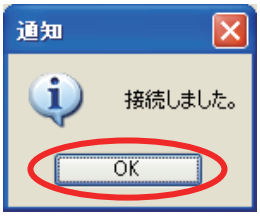


6.プログラムが起動し、自動で表示ユニットと接続を開始します。



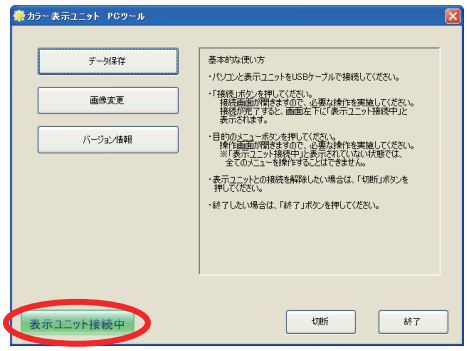
7.接続が完了すると次の通知が表示されますので『OK』をクリックしてください。

接続に失敗した場合は、「接続に失敗した場合の対応」(16 ページ)を参照してください。



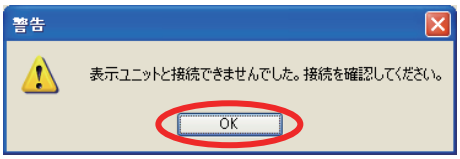
8.表示ユニットと接続されていることを確認するため”表示ユニット接続中”の文字が表示されていることを確認してください。表示がされていれば PC ツールの起動は完了です。

PC ツールの操作方法は「4.PC ツールの操作」(20 ページ)を参照してください。



■接続に失敗した場合の対応

1.接続に失敗した場合は次の警告が表示されますので『OK』をクリックしてください。



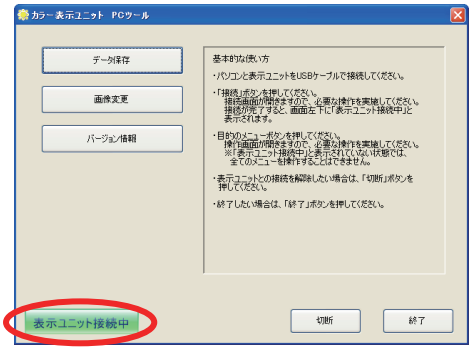
2.パソコンと表示ユニットの配線に間違いがないことを確認し手動で接続を行ってください。

手動での接続方法は「3.2.手動での接続方法」(17 ページ)を参照してください。

3.2.手動での接続方法

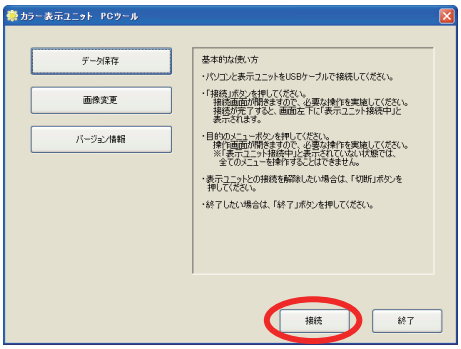
手動で接続を行う方法を説明します。

画面に“表示ユニット接続中”の文字が表示されている場合は設定不要です。

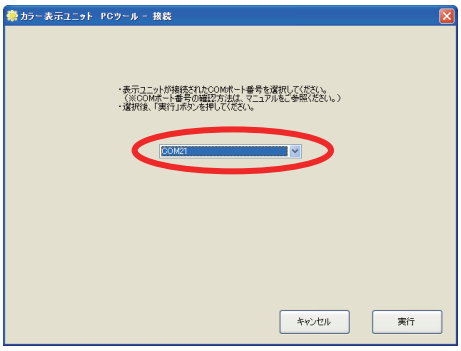


[手動での接続手順]

1.メニュー画面で『接続』をクリックしてください。



2.COM ポート番号を選択してください。COM ポート番号については 3 項の確認を行ってください。



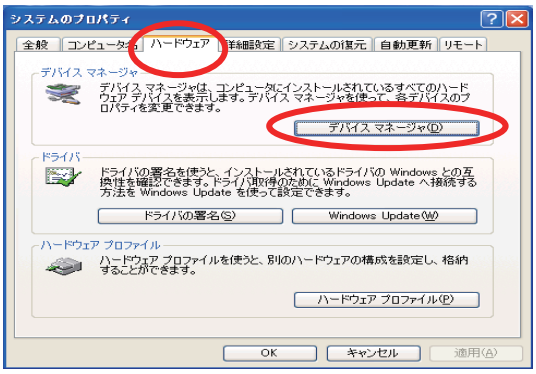
3.COM ポート番号の確認をしてください。

COM ポート番号の確認は次の手順でおこなってください。

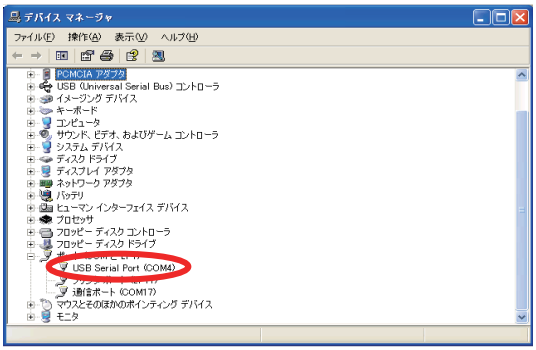
[COM ポート番号の確認手順]

①『マイコンピュータ(WindowsVista、Windows7 はコンピュータ)』を右クリックし『プロパティ』をクリックしてください。

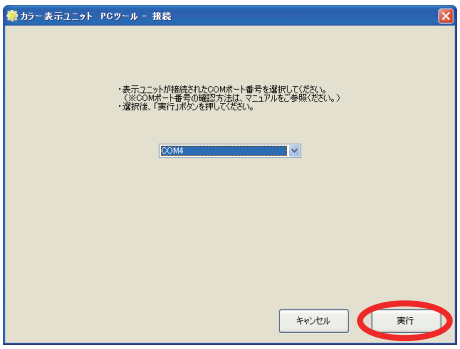
②『システムのプロパティ』ウィンドウが表示されたら、『ハードウェア』タブの『デバイスマネージャ』ボタンをクリックします。



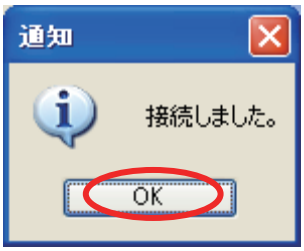
③『デバイスマネージャ』が表示されたら『ポート(COM と LPT)』を開きます。
この場合 COM ポート番号は「COM4」になります。



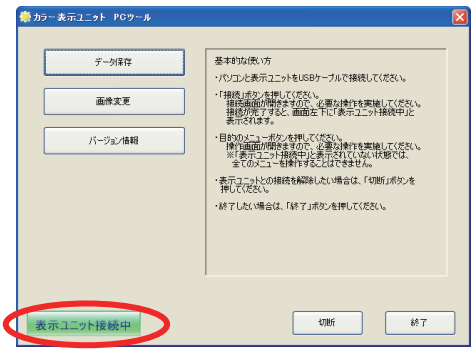
4.『実行』をクリックしてください。



5.接続が完了すると次の通知が表示されますので『OK』をクリックしてください。
接続に失敗した場合は、「接続に失敗した場合の対応」(19 ページ)を参照してください。

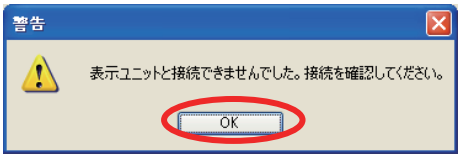


5.表示ユニットと接続されていることを確認するため”表示ユニット接続中”の文字が表示されていることを確認してください。表示がされていれば PC ツールの起動は完了です。
PC ツールの操作は「4.PC ツールの操作」(20 ページ)を参照してください。



■接続に失敗した場合の対応

1.接続に失敗した場合は次の警告が表示されますので『OK』をクリックしてください。



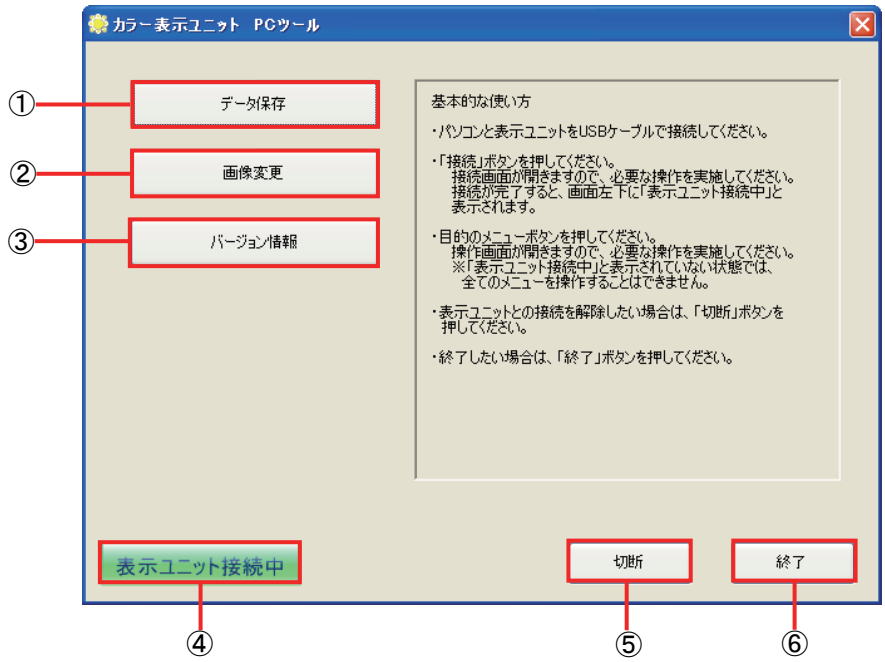
2.パソコンと表示ユニットの配線に間違いがないことを確認し再度接続確認を行ってください。
接続方法は「3.2.手動での接続方法」(17 ページ)を参照してください。

4.PC ツールの操作

本章では PC ツールの操作について説明します。

4.1.PC ツールについて

ここでは PC ツールで表示されるメニュー画面について説明します。



①データ保存(21 ページ)

表示ユニットに蓄積されたデータをパソコンに保存します。

②画像変更(27 ページ)

表示ユニットの背景画像を変更します。

③バージョン情報(32 ページ)

表示ユニットと PC ツールのソフトバージョンを表示します。

④表示ユニット接続中

表示ユニットと PC ツールが接続されている場合に表示します。

⑤接続/切断

表示ユニットと PC ツールを接続/切断します。

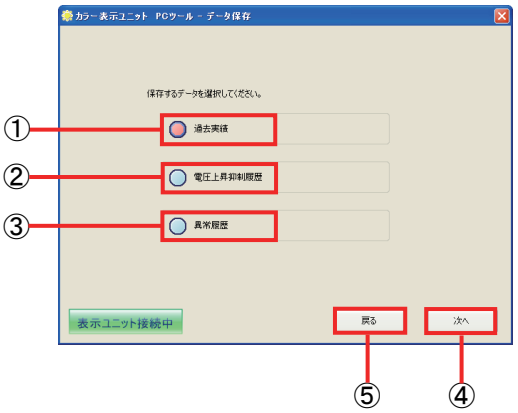
表示ユニットと PC ツールが接続されている場合に「切断」、表示ユニットと PC ツールが接続されていない場合に「接続」を表示します。

⑥終了

PC ツールを終了し、画面を閉じます。

4.2.データ保存

表示ユニットに蓄積されたデータをパソコンに保存することができます。



①過去実績

実績データ(日間、月間、年間)を CSV 形式で保存します。

実績データの見方については「実績データの見方について」(25 ページ)を参照してください。

②電圧上昇抑制履歴

電圧上昇抑制履歴を CSV 形式で保存します。

実績データの見方については「実績データの見方について」(25 ページ)を参照してください。

③異常履歴

異常履歴を CSV 形式で保存します。

実績データの見方については「実績データの見方について」(25 ページ)を参照してください。

④次へ

選択した実績データをパソコンに保存します。

⑤戻る

メニュー画面に戻ります。

■実績データ保存方法

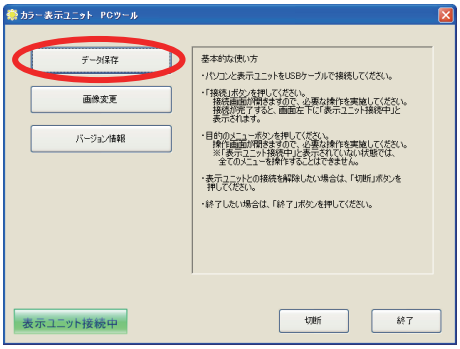
実績データの保存方法を説明します。

ここでは発電履歴のデータ保存について説明します。

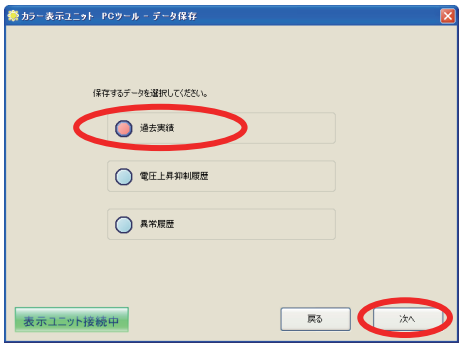
その他の実績データについては同様に操作を行ってください。

[実績データ保存手順]

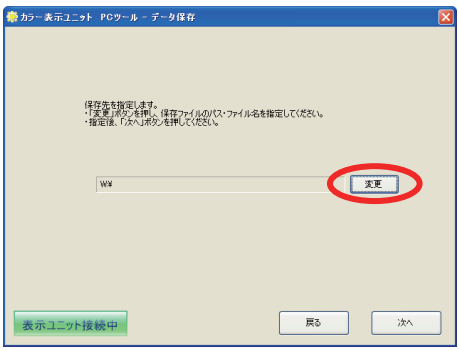
1.『データ保存』をクリックしてください。



2.『過去実績』を選択し『次へ』をクリックしてください。



3.『変更』をクリックしてください。

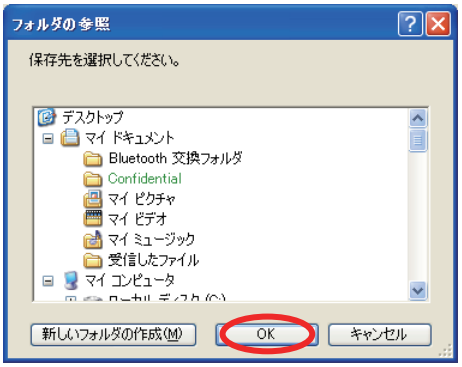


4.保存先を指定してください。指定後『OK』をクリックしてください。

過去実績はデフォルトのファイル名で保存されます。

電圧上昇抑制履歴、異常履歴は保存先とファイル名を指定してください。

既存のファイル名を指定した場合『〇〇.csv は既に存在します。置き換えますか？』の警告を表示します。置き換える場合『はい』を、ファイル名を変更する場合は『いいえ』をクリックしてください。



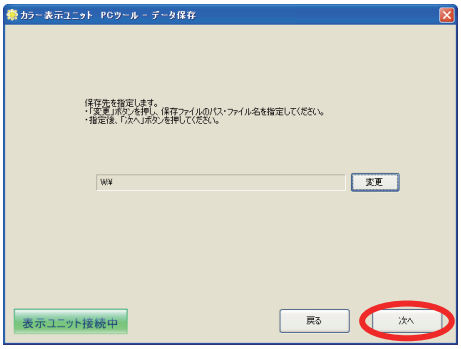
	デフォルトファイル名
日間実績	YYYYMMDDHHMM.日間実績.csv
月間実績	YYYYMMDDHHMM.月間実績.csv
年間実績	YYYYMMDDHHMM.年間実績.csv

※ファイル名称について

保存するタイミングによりファイル名称が付与されます。

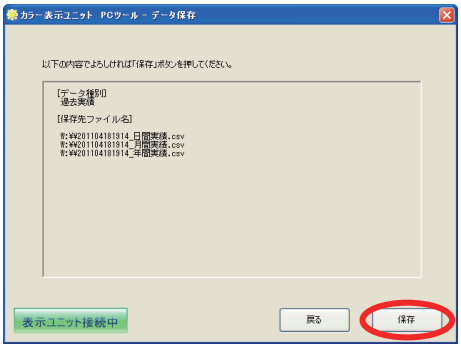
YYYY：西暦　MM：月　DD：日　HH：時　MM：分

5.『次へ』をクリックしてください。

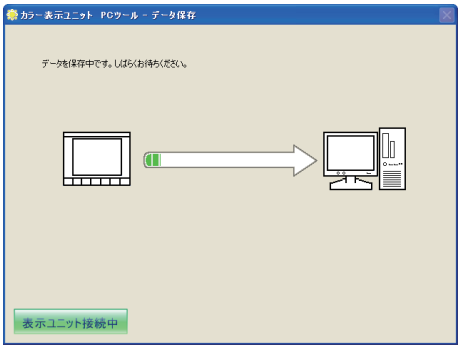


6.保存内容確認画面が表示されますので『保存』をクリックしてください。

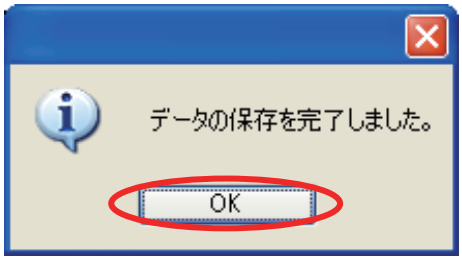
保存内容を変更する場合は『戻る』をクリックし再度設定を行ってください。



7.データを保存中です。しばらくお待ちください。



8.データの保存を完了しました。『OK』をクリックしてください。

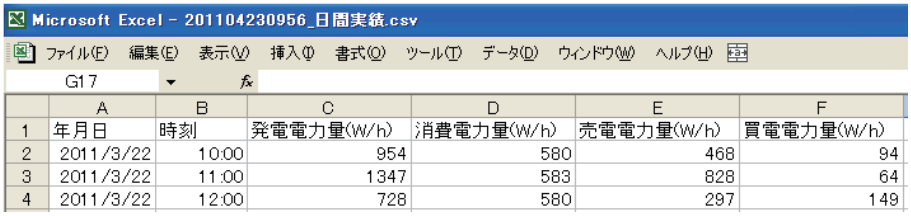


■実績データの見方について

実績データの見方について説明します。
データは CSV ファイルで保存されます。
CSV ファイルは表計算ソフト(Excel など)で開き活用してください。
ファイルを開く方法は各アプリケーションの取扱説明書をお読みください。
例は CSV ファイルを Excel で読み込んだ場合の表示例です。

[日間実績]

表示ユニットに保存されている日間実績を取り出します。
最大で 1 時間ごとのデータを過去 32 日分取り出します。
日間実績例


Microsoft Excel - 201104230956_日間実績.csv

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

G17

	A	B	C	D	E	F
1	年月日	時刻	発電電力量(W/h)	消費電力量(W/h)	売電電力量(W/h)	買電電力量(W/h)
2	2011/3/22	10:00	954	580	468	94
3	2011/3/22	11:00	1347	583	828	64
4	2011/3/22	12:00	728	580	297	149

[月間実績]

表示ユニットに保存されている月間実績を取り出します。
消費電力は表示ユニットで設定した時間帯ごとの消費電力量を表示します。
最大で 1 日ごとのデータを過去 13 か月分取り出します。
月間実績例

Microsoft Excel - 201104230956_月間実績.csv

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) 質問を入力してください

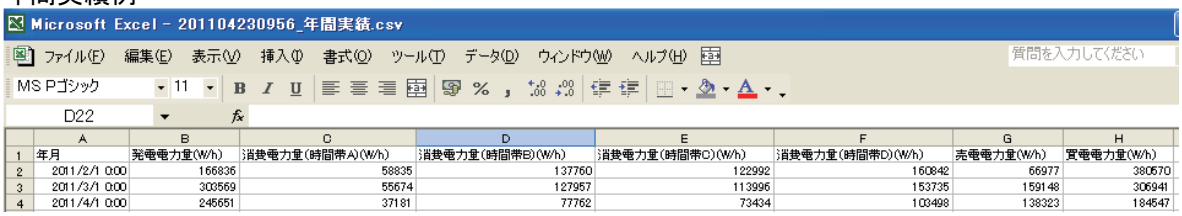
I25

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	年月日	発電電力量(W/h)	消費電力量(時間帯A)(W/h)	消費電力量(時間帯B)(W/h)	消費電力量(時間帯C)(W/h)	消費電力量(時間帯D)(W/h)	売電電力量(W/h)	買電電力量(W/h)
2	2011/2/3	9225	1931	4341	3884	5254	4454	10639
3	2011/2/4	10127	1902	4298	3856	5234	4780	9943
4	2011/2/5	7746	1911	4397	3866	5210	2939	10577
5	2011/2/6	7072	1922	4418	3890	5223	1973	10354

※時間帯(A～D)の変更方法は表示ユニットの取扱説明書「4.8.時間帯別消費電力量比率」(34 ページ)を参照してください。

[年間実績]

表示ユニットに保存されている年間実績を取り出します。
消費電力は表示ユニットで設定した時間帯ごとの消費電力量を表示します。
最大で1か月ごとのデータを過去 15 年分取り出します。
年間実績例


Microsoft Excel - 201104230956_年間実績.csv

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) 質問を入力してください

MS Pゴシック 11

D22

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	年月	発電電力量(W/h)	消費電力量(時間帯A)(W/h)	消費電力量(時間帯B)(W/h)	消費電力量(時間帯C)(W/h)	消費電力量(時間帯D)(W/h)	売電電力量(W/h)	買電電力量(W/h)
2	2011/2/1 0:00	166836	58835	137760	122992	160842	66977	380570
3	2011/3/1 0:00	303569	55674	127957	113996	153735	159148	306941
4	2011/4/1 0:00	245651	37181	77762	73434	103498	138323	184547

※時間帯(A～D)の変更方法は表示ユニットの取扱説明書「4.8.時間帯別消費電力量比率」(34 ページ)を参照してください。

■実績データと表示ユニットに表示される値の違い

表示ユニットから出力したデータは表示ユニットで表示する値と単位が異なります。
・CSV 出力データ:Wh
・表示ユニットに表示する値:kWh
Whの 1000 倍がkWh で CSV 出力データは表示ユニットがもつデータを、より正確に出力します。

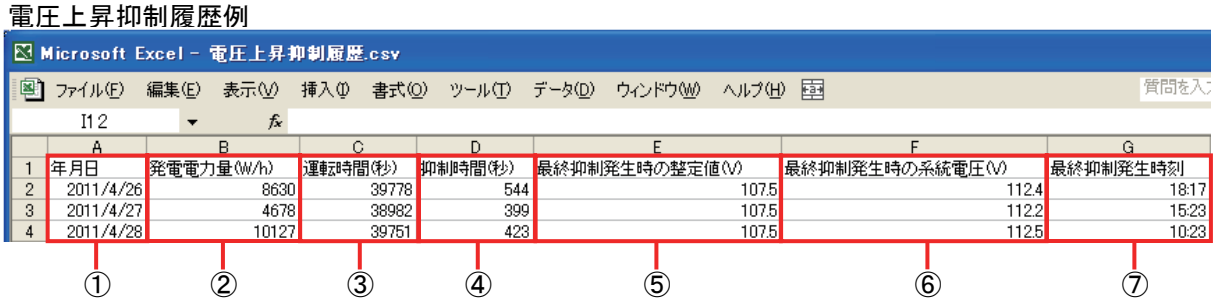
[電圧上昇抑制履歴]

表示ユニットに保存されている電圧上昇抑制履歴を取り出します。

抑制機能が働いていない期間も抑制時間 0 秒として取り出されます。

1 日ごとのデータを過去 13 か月分取り出します。

電圧上昇抑制履歴例


Microsoft Excel - 電圧上昇抑制履歴.csv
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
I12
A 年月日
B 発電電力量(W/h)
C 運転時間(秒)
D 抑制時間(秒)
E 最終抑制発生時の整定値(V)
F 最終抑制発生時の系統電圧(V)
G 最終抑制発生時刻
2 2011/4/26 8630 39778 544 107.5 112.4 18:17
3 2011/4/27 4678 38982 399 107.5 112.2 15:23
4 2011/4/28 10127 39751 423 107.5 112.5 10:23
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

グラフの見方

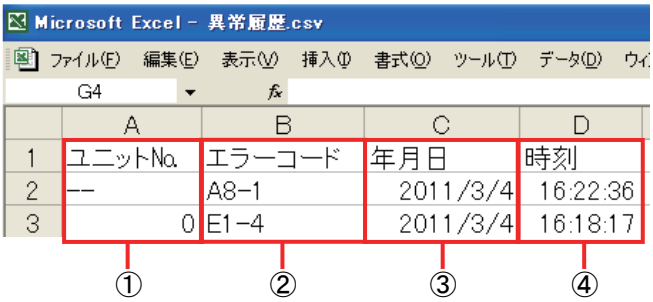
項目	説明
①年月日	抑制履歴を保存した日付を表示します。 抑制機能が働かなくても履歴は毎日保存されます。
②発電電力量(W/h)	パワーコンディショナの 1 日の発電電力量を表示します。
③運転時間(秒)	パワーコンディショナの 1 日の運転時間を表示します。
④抑制時間(秒)	電圧上昇抑制機能が働いた 1 日の時間を表示します。
⑤最終抑制発生時の整定値(V)	電圧上昇抑制機能が働いた時のパワーコンディショナの 整定値を表示します。 電圧上昇抑制機能が働いていない場合は“0”を表示します。
⑥最終抑制発生時の系統電圧(V)	電圧上昇抑制機能が働いた時の系統電圧を表示します。 電圧上昇抑制機能が働いていない場合は“0”を表示します。
⑦最終抑制発生時刻	電圧上昇抑制機能が働いた最終時刻を表示します。 電圧上昇抑制機能が働いていない場合は“-”を表示します。

[異常履歴]

表示ユニットに保存されている異常履歴を取り出します。

最大 50 件取り出します。

異常履歴例



グラフの見方

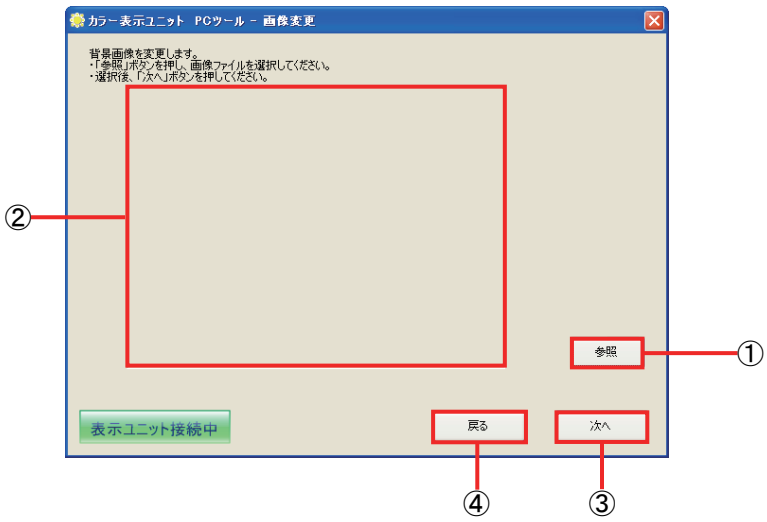
①ユニット No.	異常が発生しているパワーコンディショナのユニット No.を表示します。 表示ユニット、計測ユニットのエラーのときは“- -”と表示します。
②エラーコード	発生したエラーを表示します。 エラーコードの内容については表示ユニットの取扱説明書「8.1.エラー表示」 (68 ページ)を参照してください。
③年月日	エラーが発生した日付を表示します。
④時刻	エラーが発生した時刻を表示します。

4.3.画像変更

表示ユニットのカスタム背景画像を変更する事ができます。

(bmp、jpeg、png の画像形式が参照可能です。)

カスタム背景画像を変更すると、それまでのカスタム背景画像に上書きされますので、変更の際は注意してください。



①参照

変更する画像データを選択します。

②背景画像プレビュー

背景画像を表示します。

背景画像を選択後は、選択した背景画像を表示します。起動直後には背景画像は表示されません。

③次へ

選択した画像データを表示ユニットに取り込みます。

④戻る

メニュー画面に戻ります。

■画像の拡縮について

表示ユニットの背景画面のピクセルサイズは VGA(640×480)です。

画像サイズが 640×480 でない場合は画像サイズが 640×480 になるように拡縮されます。

・画像の横縦比が 4:3 の場合は、横縦比の変更なく画像を拡縮します。

(例)画像サイズ:1200×900 の画像の場合⇒画像の横縦比が変わらず 640×480 に縮小します。

(例)画像サイズ:120×90 の画像の場合⇒画像の横縦比が変わらず 640×480 に拡大します。

・画像の横縦比が 4:3 でない場合は、横縦比を変更し画像を拡縮します。

(例)画像サイズ:1600×900 の画像の場合⇒画像の横縦比が変わり 640×480 に縮小します。

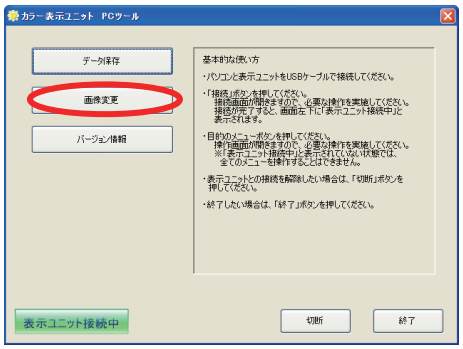
(例)画像サイズ:160×90 の画像の場合⇒画像の横縦比が変わり 640×480 に拡大します。

■画像変更方法

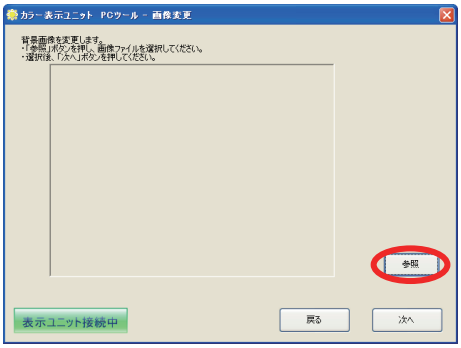
表示ユニットの画像変更方法を説明します。

[表示ユニットの画像変更手順]

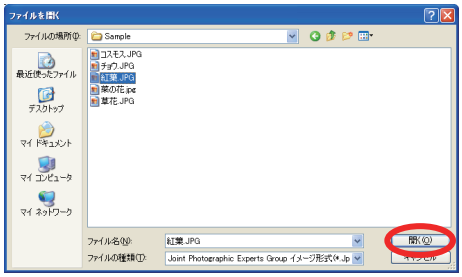
1.『画像変更』をクリックしてください。



2.『参照』をクリックしてください。



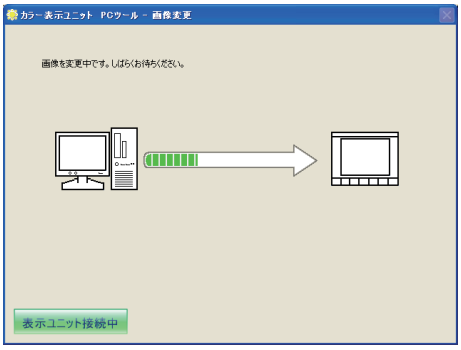
3.参照先から変更する画像を選択し、『開く』をクリックしてください。



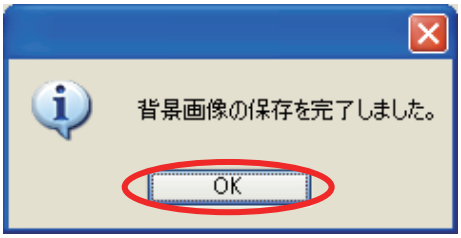
4.選択した画像が表示されます。この画像に変更する場合は『次へ』をクリックしてください。
画像を選択しなおす場合は『参照』をクリックして再度、画像を選択してください。

5.『変更』をクリックしてください。

6.画像を変更中です。しばらくお待ちください。



7.背景画像の保存を完了しました。『OK』をクリックしてください。



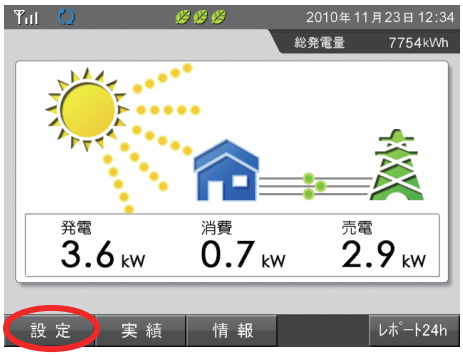
8.PC ツールを終了してください。終了方法は「5.PC ツールの終了」(33 ページ)を参照してください。
PC ツールを終了後、表示ユニットの設定を行ってください。

■表示ユニットの設定

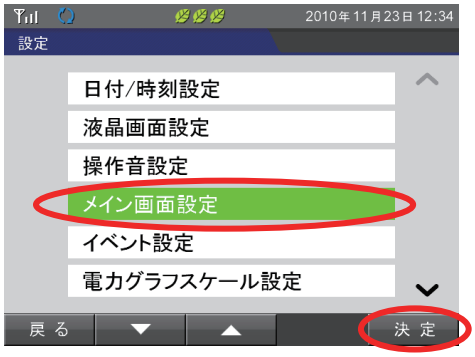
変更した画像を表示ユニットに表示させるためには、表示ユニットの設定を変更する必要があります。
ここでは表示ユニットの設定変更方法を説明します。

[表示ユニットの設定変更手順]

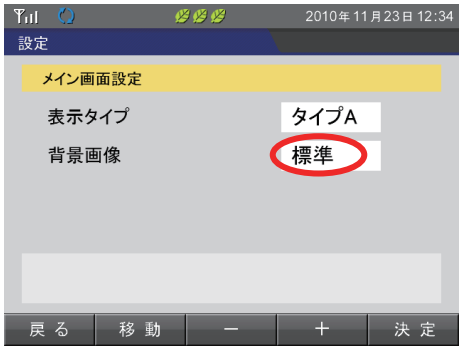
1.メイン画面表示状態で 設 定 キーを押してください。



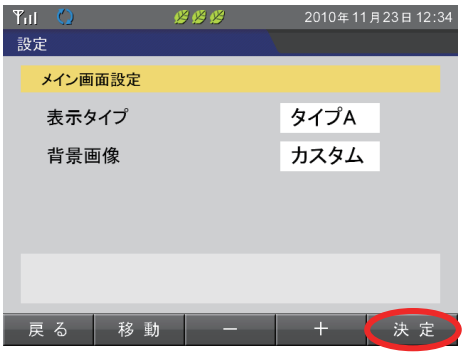
2.「設定メニュー画面」が表示されますので、「メイン画面設定」の項目にカーソルを合わせ
決 定 キーを押してください。



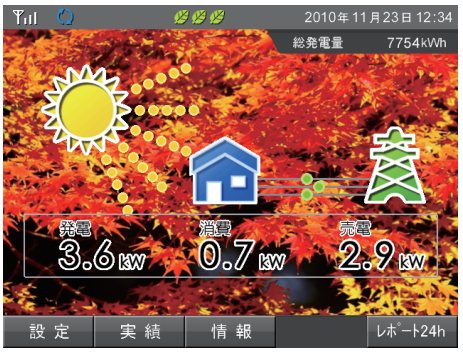
3.「メイン画面設定」が表示されますので、背景画像が“標準”になっている場合は
＋ ／ － キーを押して“カスタム”にしてください。



4. 決 定 キーを押してください。

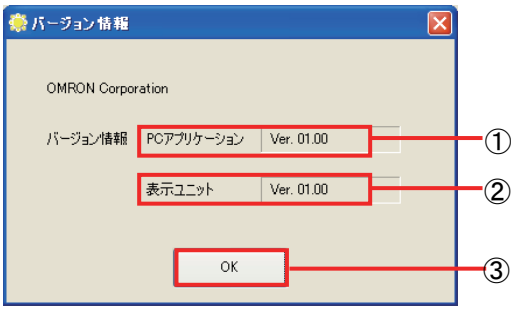


5.メイン画面が表示されるまで 戻 る キーを 2 回、押してください。
背景画像が変更されたメイン画面が表示されます。



4.4.バージョン情報

表示ユニットと PC ツールのソフトバージョンを表示します。



①PC アプリケーション

PC ツールのソフトバージョンを表示します。

②表示ユニット

表示ユニットのソフトバージョンを表示します。

③OK

確認後『OK』をクリックしてメニュー画面に戻ってください。

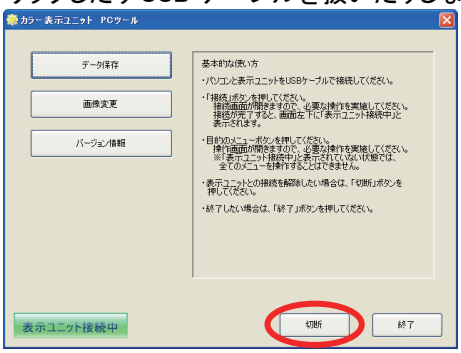
5.PC ツールの終了

PC ツール終了する方法について説明します。PC ツールを終了する際は、次の手順に従って操作を行ってください。

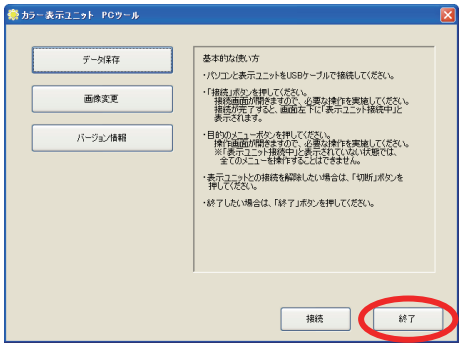
[PC ツール終了手順]

1.PC ツールの『切断』をクリックしてください。

切断をクリック前に『終了』をクリックしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。

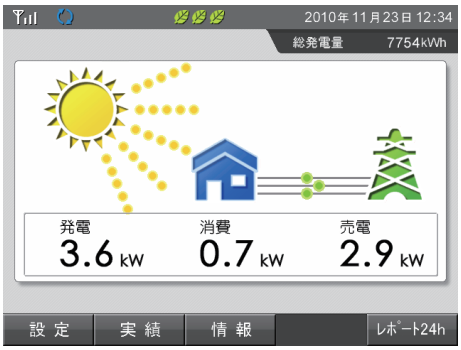


2.“表示ユニット接続中”が消えたことを確認後、『終了』をクリックしてください。



3.表示ユニットに接続している、USB ケーブルをパソコンと表示ユニットから外してください。

4.表示ユニットがメイン画面に戻ったら完了です。

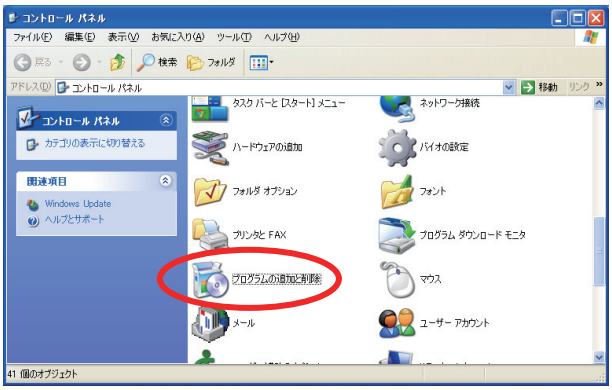


6.アンインストール

PC ツールを使用しなくなった場合などに、パソコンから PC ツールをアンインストール(削除)できます。
この章ではアンインストールする方法を説明します。

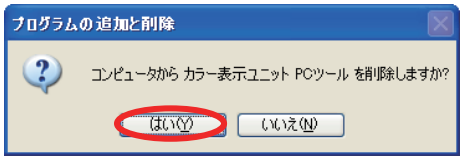
[アンインストール手順]

1.Windowsのデスクトップ画面で、『スタート』→『コントロールパネル』→『プログラムの追加と削除』をクリックしてください。『プログラムの追加と削除』はWindows Vista、Windows 7は『プログラムのアンインストール』と表示されます。



2.『カラー表示ユニット　PC ツール』を選択し、『削除』をクリックしてください。

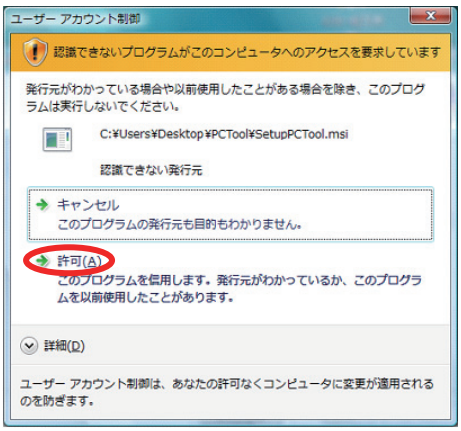
3.PC ツールを削除します。『はい』をクリックしてください。



ご使用されるパソコンの OS が Windows XP 以外の場合、ユーザーアカウント制御の警告が表示される場合があります。パソコンの OS ごとに次の対処を行ってください。

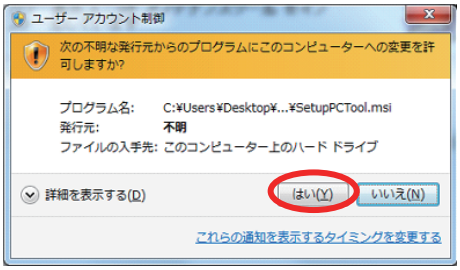
[Windows Vista の場合]

『許可』をクリックしてください。



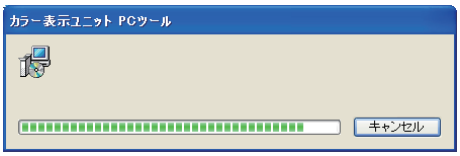
［Windows 7 の場合］

『はい』をクリックしてください。



4.PC ツールを削除しています。しばらくお待ちください。

アンインストールを中断する場合は『キャンセル』をクリックしてください。



5.タスクバーが完了し、表示が消えたらアンインストール完了です。

One Point

・PC ツールをアンインストールした際に、インストール先のフォルダやレジストリが残ることがあります。

・PC ツールを使用する場合は、再度インストールをしてください。
インストール方法は「2.PC ツールのセットアップ手順」(5 ページ)を参照してください。

7.トラブルシューティング

ここでは次のような現象が発生した場合について対処法を明記します。

現象	対処法
インストールができない。	使用するパソコンの動作環境が整っているか確認してください。 動作環境(3 ページ)
	コンピューターの管理者または、Administrator のユーザ名でログインしているか確認してください。
PCツールを使用中に通信が切断した。	表示ユニットとパソコンをつなぐケーブルが抜けていないか確認してください。 PC ツールに“表示ユニット接続中”と表示されていない場合は、再度 PC ツールを接続してください。 3.1.PC ツールの起動方法(8 ページ)
電圧上昇抑制履歴もしくは異常履歴を保存する時に次のエラーが表示される。 	電圧上昇抑制履歴もしくは異常履歴を保存する時は保存先とファイル名を指定してください。 実績データ保存方法の 4 項(23 ページ)
一度 PC ツールのセットアップを行っているが再度ドライバの要求が求められる。	セットアップを行った USB ポート以外の USB ポートに USB ケーブルを差し込むとドライバのインストールの要求が求められます。 セットアップを行った USB ポートに差し込みなおしてください。 別の USB ポートを使用する場合は次のドライバーのインストール手順を参照してください。 Windows XP の場合　:9 ページ Windows Vista の場合:11 ページ Windows 7 の場合　:13 ページ
背景画像を変更したのに表示ユニットの背景画像が変更されていない。	表示ユニットの背景画像は設定を変更しないと変わりません。 表示ユニットの設定を変更してください。 表示ユニットの設定変更手順(30 ページ)を参照してください。